



愛隣幼稚園.....

園だより

..... 14. 7月号

お団子も海苔巻も嫌い

愛隣幼稚園の庭には食べられる実のなる木が3本あります。1番古いのは柿の木。その次はちきゅう組が卒業の記念に植えてくれたみかんの木。そして一番若いのは枇杷の木です。不思議なことにどの木も美味しい実をつけてくれます。肥料もあげていません。むしろ、足元の地面はいつも掘り返されて、きっと気が気ではないはず。柿の木にいたっては、木登りには絶好の枝ぶりになってきて、毎日のように子どもたちがよじ登っています。こんなに酷使されているにも関わらず、毎年、甘い美味しい実を私たちにくれるのです。食いしん坊の愛隣幼稚園にはピッタリの実のなる木たちです。先日もたくさん実った枇杷を収穫しみんなでいただきました。ところが、食べられない子が結構いるのです。「ようちえんのびわ、あまいよ～。とくべつだよ!」と、声をかけてみますが、駄目です。枇杷が頻繁に食卓に並ぶことはありませんから、食べたことがない子もたくさんいて、そう考えると仕方ないかなぁと思います。でも、他にも「えっ、これもこんなに食べられないの?」と驚くことがありました。1つは『みたらしだんご』。たんぼぼ組の誕生会で、食べられない子が続出しました。お団子やお餅を食べたことがない子が多いようでした。さらに、ランチデーの海苔巻(かんぴょう巻とかっぱ巻)。これがまた散々な状況で、たんぼぼはもちろん、ゆめ組の子ども達もきゅうりやかんぴょうを抜いて食べている子がたくさんいました。「きらい。」という子もいましたが、よく聞いてみるとやはり「食べたことがない」というところが共通していました。『みたらしだんご』も『かんぴょう巻、かっぱ巻』も子どもたちにはポピュラーな食べ物と、私たちは考えていたのですが、違っていたようです。そして我が家では、娘たちの友だち(成人しています)に食べ物の好き嫌が多いということが話題になりました。娘たちにも嫌いな物がありますが、その話の内容には少し驚き、これでは日本の将来はどうなるのか?と不安にもなりました。きのこが駄目、なすが駄目、魚が駄目、野菜全般が駄目……。どの子もアレルギーで食べられないということではなく好き嫌いだそうです。そしてもっと驚いたことには、そのご家庭では、それらの食材は好き嫌いが出てきた幼児期以降、食卓に上らなかったということです。

イタリアの調査報告にこのようなものがありました。「初めての食べ物や飲み物にお子さんはどう反応しますか?」という質問に対して、0～3歳の子どものうち、20%の子もたちは「不安げである」、5%は「食べることを拒否する」であり、残りの75%は「好奇心をみせる」でした。一方で3～5歳の子どもの44%は「不安げである」、17%は「食べることを拒否する」で、残りの39%は「好奇心を見せる」というものです。つまり、3歳までの子どもは初めての食べ物や飲み物に対する感受性はまだ大らかですが、3歳を超えると、不安になったり、拒否してしまったり、要するに「好き嫌い」が出てくるということです。

～そうか、そういうことか・・・では、もう手遅れ?!～しかし、この調査報告を書いていた方は更にこんなことも書いていました。～この好き嫌いを克服するためには、親が何を食べていくかを根気よく伝えていく努力が必要で、さらに大切なことは、食文化の伝統も親が伝えていくということです～何とかなりそうです。ただ「根気よく伝えていく努力」には手間や時間が不可欠です。大切な家族のために手間をかけて料理を作り共に食卓を囲む時間です。その中で味覚の記憶と共に愛され大事にされた記憶も刻まれていきます。愛され大事にされた人が、また、誰かを愛する人になりその家族のために心をこめて食事を作ります。そうして文化や伝統も受け継がれていくのです。「食育」とはそういうもののようです。